

# 海外国債ファンド（3ヵ月決算型）

## 追加型投信／海外／債券

### 受益者の皆さまへ

毎々格別のお引き立てに預かり厚くお礼申し上げます。

当ファンドは、主として海外国債マザーファンドを通じて、アメリカ、イタリア、ドイツ、フランス、イギリスそしてカナダの6ヵ国が発行する国債と政府機関債（国債と同等の格付けを持つもの）を中心に分散投資を行います。

当作成対象期間につきましても、これに沿った運用を行いました。ここに、運用経過等をご報告申し上げます。

今後とも一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

作成対象期間 2019年5月16日～2019年11月15日

第67期	決算日：2019年8月15日	
第68期	決算日：2019年11月15日	
第68期末 (2019年11月15日)	基準価額	9,029円
	純資産総額	2,311百万円
第67期～ 第68期	騰落率	2.9%
	分配金合計	80円

(注1) 騰落率は分配金再投資基準価額の騰落率を表示しています。

(注2) △(白三角)はマイナスを意味しています(以下同じ)。

当ファンドは投資信託約款において、運用報告書(全体版)を電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書(全体版)は、下記のホームページにアクセスし、「基準価額一覧」等から当ファンドの名称を選択いただき、ファンドの詳細ページから閲覧、ダウンロードすることができます。また、運用報告書(全体版)は受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

### ■運用報告書に関するお問い合わせ先

コールセンター **0120-104-694**

(受付時間：営業日の午前9時から午後5時まで)

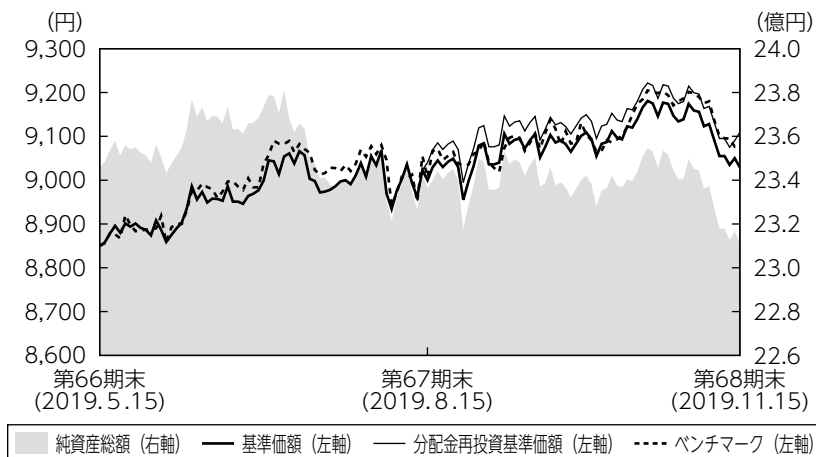
お客さまのお取引内容につきましては、購入された販売会社にお問い合わせください。

アセットマネジメントOne 株式会社

東京都千代田区丸の内1-8-2 <http://www.am-one.co.jp/>

## 運用経過の説明

### 基準価額等の推移



第67期首： 8,850円  
 第68期末： 9,029円  
 (既払分配金80円)  
 騰落率： 2.9%  
 (分配金再投資ベース)

- (注1) 分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものではありません。
- (注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
- (注3) 分配金再投資基準価額およびベンチマーク（F T S E 世界国債インデックス（除く日本、7-10年、円ベース））は、期首の基準価額に合わせて指数化しています。なお、ベンチマークについては後掲の<当ファンドのベンチマークについて>をご参照ください。

### 基準価額の主な変動要因

当ファンドは、海外国債マザーファンド受益証券（以下、「マザーファンド」といいます。）ならびに日本を除く世界主要先進国の公社債を主要投資対象として、長期的に安定した収益確保と信託財産の成長を目指します。当作成期間は、債券の利息収入や投資対象国全てで国債利回りが低下したことが基準価額のプラス要因となりましたが、米ドルとユーロ、英ポンドが対円で下落したことがマイナス要因となりました。

## 1 万口当たりの費用明細

項目	第67期～第68期		項目の概要
	(2019年5月16日 ～2019年11月15日)		
	金額	比率	
(a) 信託報酬	47円	0.518%	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 期中の平均基準価額は9,029円です。 投信会社分は、信託財産の運用、運用報告書等各種書類の作成、基準価額の算出等の対価 販売会社分は、購入後の情報提供、交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価 受託会社分は、運用財産の保管・管理、投信会社からの運用指図の実行等の対価
(投信会社)	(15)	(0.164)	
(販売会社)	(30)	(0.327)	
(受託会社)	( 2)	(0.027)	
(b) その他費用	1	0.014	(b) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 保管費用は、外国での資産の保管等に要する費用 監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査にかかる費用 その他は、信託事務の処理に要する諸費用等
(保管費用)	( 1)	(0.012)	
(監査費用)	( 0)	(0.002)	
(その他)	( 0)	(0.000)	
合計	48	0.532	

(注1) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。なお、その他費用は、このファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

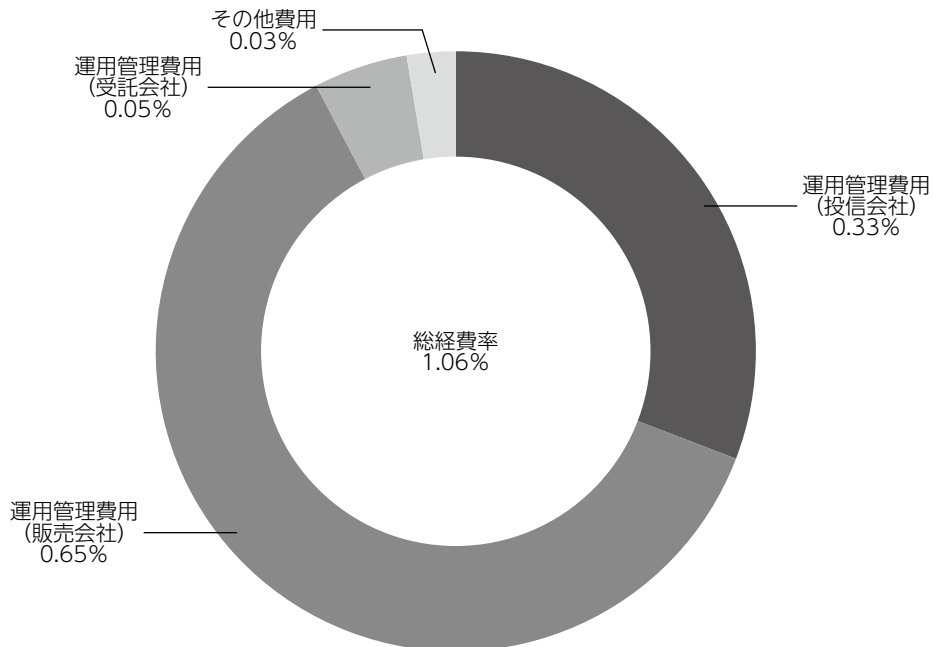
(注2) 金額欄は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注3) 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

（参考情報）

◆総経費率

当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.06%です。



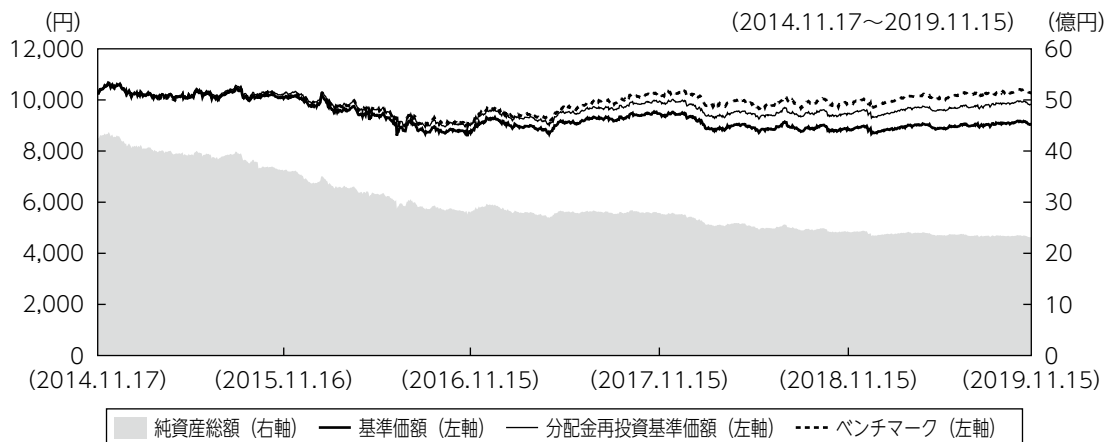
(注1) 1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は、年率換算した値です。

(注4) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率と異なります。

## 最近5年間の基準価額等の推移



- (注1) 分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
- (注3) 分配金再投資基準価額およびベンチマーク（F T S E 世界国債インデックス（除く日本、7-10年、円ベース））は、2014年11月17日の基準価額に合わせて指数化しています。

	2014年11月17日 期首	2015年11月16日 決算日	2016年11月15日 決算日	2017年11月15日 決算日	2018年11月15日 決算日	2019年11月15日 決算日
基準価額 (分配落) (円)	10,277	10,053	8,703	9,467	8,838	9,029
期間分配金合計 (税引前) (円)	—	160	160	160	160	160
分配金再投資基準価額の騰落率 (%)	—	△0.6	△11.9	10.7	△4.9	4.0
ベンチマークの騰落率 (%)	—	△1.3	△10.7	13.0	△3.4	4.0
純資産総額 (百万円)	4,254	3,613	2,794	2,788	2,416	2,311

## 投資環境

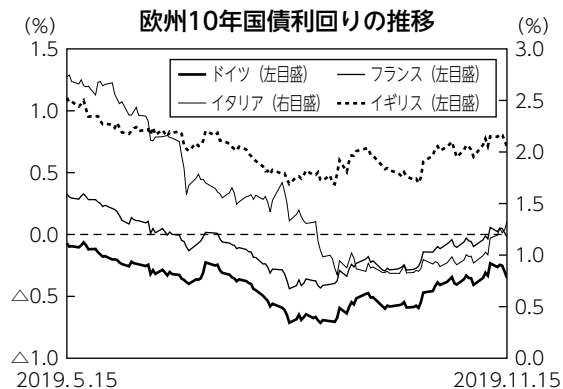
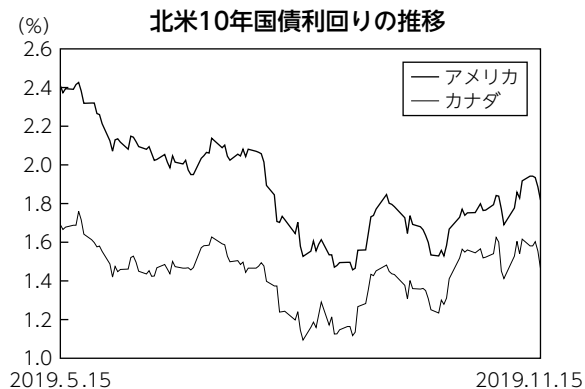
### ● 海外債券市場

米国10年国債利回りは、世界景気の減速懸念の高まりや米中貿易摩擦の激化、F R B（米連邦準備制度理事会）が利下げを実施したことなどにより、低下傾向で推移しました。2019年9月以降は、米中通商協議に対する楽観的な見方が浮上したことなどにより、利回りは低下幅を縮小しました。

ドイツとフランスの10年国債利回りは、欧州景気の減速懸念や米中貿易摩擦の激化、E C B（欧州中央銀行）がハト派姿勢を強めていることなどにより、低下傾向で推移しました。9月以降は、イタリアの新政権発足などを受けて欧州の政治的不透明感が後退したことや、米中对立の緩和期待などにより、利回りは低下幅を縮小しました。イタリア10年国債利回りは、E C Bによる追加金融緩和への期待や、新政権の発足による政治的不透明感の後退などにより、低下しました。

英国10年国債利回りは、合意なきE U（欧州連合）離脱への懸念が高まったことや英国景気の減速懸念などにより、低下しました。9月以降は、E Uと新たな離脱協定で合意したことなどにより、合意なき離脱への懸念が後退したことから、利回りは低下幅を縮小しました。

カナダ10年国債利回りは、概ね米国10年国債利回りに連動しました。



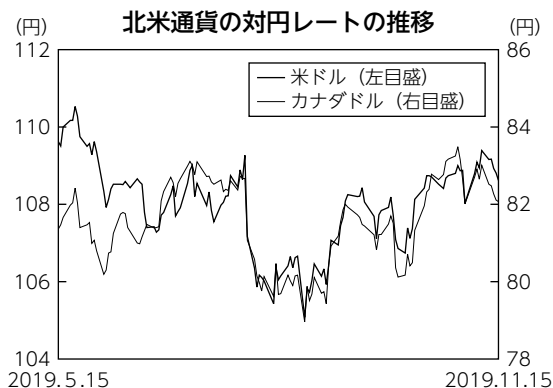
## ●為替市場

米ドル／円相場は、世界景気の減速懸念や米中貿易摩擦の激化などにより投資家のリスク回避姿勢が高まったことや、米国の利下げ観測の高まりなどにより、米ドル安円高となりました。2019年9月以降は、米中貿易摩擦への懸念が和らいだことや、米国で過度な利下げ観測が後退したことなどにより、米ドルは下落幅を縮小しました。

ユーロ／円相場は、ユーロ圏の景気減速懸念、ECBによる追加金融緩和期待、イタリアの政局に対する不透明感などにより、ユーロ安円高となりました。

英ポンド／円相場は、ジョンソン首相が議会閉鎖を決定したことなどにより、合意なきEU離脱への懸念が高まったことから英ポンド安円高となりました。9月以降は、合意なきEU離脱への懸念後退などにより、英ポンドは下落幅を縮小しました。

カナダドル／円相場は、概ね米ドル／円相場に連動して推移しましたが、6月に主要輸出品目である原油の価格が上昇したことや金融政策の方向感の違いなどによりカナダドルが上昇したことから、当作成期間を通じてみるとカナダドル高円安となりました。



## ポートフォリオについて

### ●当ファンド

当ファンドは、当作成期間を通じてマザーファンドを高位に組み入れ、直接投資は行っておりません。

### ●海外国債マザーファンド

マザーファンドの運用では、日本を除く世界主要先進国の公社債を主要投資対象とし、長期的に安定した収益の確保と投資信託財産の成長を目指して運用を行いました。当作成期間を通じて外貨建資産の組入比率を高位に保ちました。

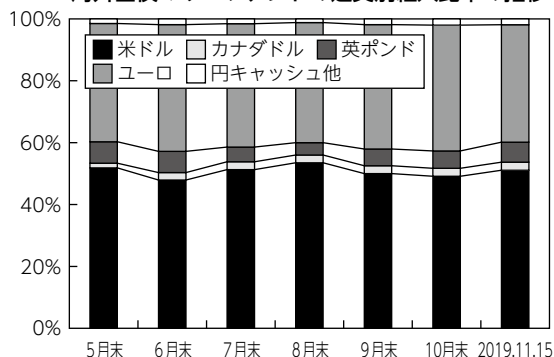
ポートフォリオのデュレーションは、投資対象国の国債利回りは当面レンジ内で推移するとの見方から、ベンチマークであるF T S E世界国債インデックス（除く日本、7-10年、円ベース）に対して中立水準を基本としつつ△0.3年～+0.8年程度の範囲で調整しました。

通貨配分比率については、第67期首では投資対象6カ国を100%とした配分に対して、相対的に景気が堅調な米ドルを小幅オーバーウェイト、その分ユーロとカナダドルを小幅アンダーウェイトとしました。その後は、合意なきEU離脱への懸念などにより、英ポンドへの配分を引き下げました。2019年9月には、英国のEU離脱は合意なき離脱と離脱撤回のどちらの可能性もあるとの見方から英ポンドを中立とし、その分米ドルのオーバーウェイトを縮小しました。

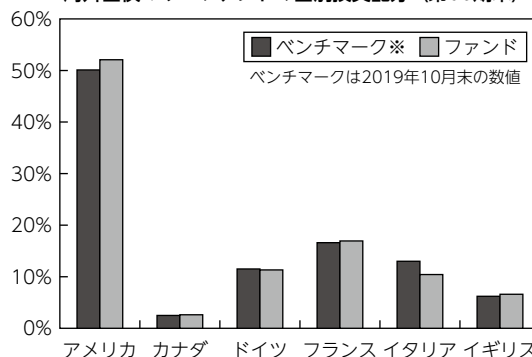
ユーロ圏の国別配分については、財政規律への懸念や政治的不透明感からイタリアをアンダーウェイトにしていたましたが、新政権が発足し政治的不透明感が後退したことから一時小幅オーバーウェイトとしました。しかし、当作成期末には2020年の予算案への懸念から再びアンダーウェイトとしました。

第68期末時点におけるポートフォリオの特性は、平均クーポン2.4%程度、平均最終利回り1.0%程度、平均直接利回り2.1%程度、平均残存年数9.0年程度、平均デュレーション8.1年程度です。（平均最終利回りはキャッシュを含めたものです）

海外国債マザーファンドの通貨別組入比率の推移



海外国債マザーファンドの国別投資配分（第68期末）



\* F T S E世界国債インデックス（除く日本、7-10年、円ベース）の対象国のうち、上記グラフは当ファンドの投資対象国である6カ国を100%として算出しています。



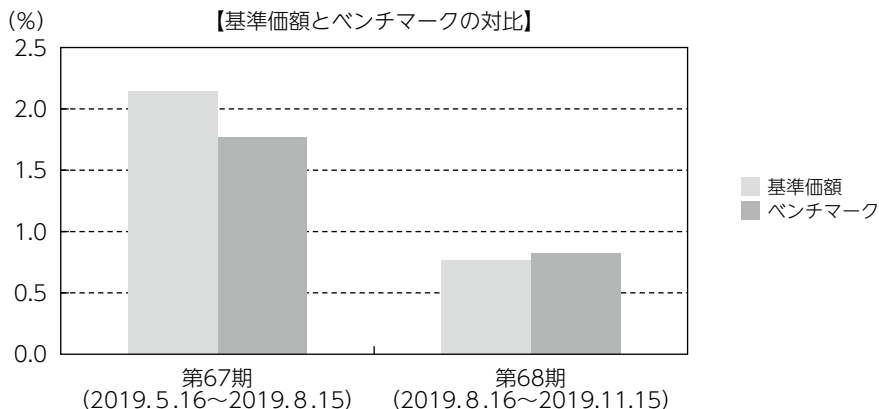
## ベンチマークとの差異について

当ファンドはF T S E世界国債インデックス（除く日本、7-10年、円ベース）をベンチマークとしています。

当作成期間の当ファンドの分配金再投資ベースでの騰落率は+2.9%、ベンチマークは+2.6%となり、ベンチマークを上回る結果となりました。

投資対象国の中で相対的に金利の低下幅の大きかった米国をオーバーウェイトしていたことや、金利が概ね低下傾向にある中でデュレーションを長期化していたことがプラス要因となりました。しかし、信託報酬等のコストや投資対象国の中で相対的に金利の低下幅の大きかったイタリアをアンダーウェイトしていた時期があったことがマイナス要因となりました。

グラフは、当ファンドの基準価額とベンチマークの騰落率の対比です。



(注) 基準価額の騰落率は分配金（税引前）込みです。

期間	超過収益率	基準価額騰落率	ベンチマーク騰落率	超過収益の発生要因
第67期首より 5月末	△0.35%	0.42%	0.77%	米ドルの為替要因、為替評価レートの差異等からマイナスとなりました。
6月	△0.08%	1.26%	1.34%	米ドルの為替要因、非投資対象国の要因等からマイナスとなりました。
7月	0.15%	0.39%	0.24%	イタリアの債券要因及び非投資対象国の要因等からプラスとなりました。
8月	0.67%	1.00%	0.33%	米国の債券要因及び非投資対象国の要因等からプラスとなりました。
9月	△0.27%	0.19%	0.46%	米国の債券要因及び為替評価レートの差異等からマイナスとなりました。
10月初めから 第68期末	0.20%	△0.35%	△0.55%	米ドルの為替要因、為替評価レートの差異等からプラスとなりました。

※基準価額騰落率は分配金再投資ベース。

※超過収益率=基準価額騰落率-ベンチマーク騰落率。

※超過収益の発生要因は、当ファンドが投資している海外国債マザーファンドの運用状況とあわせて記載しております。

※採用している為替レートは、基準価額が東京市場対顧客電信売買相場の仲値、ベンチマークがWM/ロイターのロンドン時間午後4時の仲値です。

## 分配金

収益分配金につきましては基準価額水準・市況動向等を勘案し、以下の表の通りとさせていただきます。なお、収益分配金に充てなかった利益は信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

## 分配原資の内訳（1万口当たり）

項目	第67期	第68期
	2019年5月16日 ~2019年8月15日	2019年8月16日 ~2019年11月15日
当期分配金（税引前）	40円	40円
対基準価額比率	0.44%	0.44%
当期の収益	40円	35円
当期の収益以外	-円	4円
翌期繰越分配対象額	308円	304円

- (注1) 「当期の収益」および「当期の収益以外」は、小数点以下切捨てで算出しているためこれらを合計した額と「当期分配金（税引前）」の額が一致しない場合があります。
- (注2) 当期分配金の「対基準価額比率」は「当期分配金（税引前）」の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。また、小数点第3位を四捨五入しています。
- (注3) 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後・繰越欠損補填後の売買益（含、評価益）」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「分配準備積立金」および「収益調整金」から分配に充当した金額です。

## 今後の運用方針

米国経済は、景気減速懸念は残るものの米中通商協議の進展などの好材料もあり、過度な悲観論は後退しています。金融政策については、F R Bは予防的な利下げを2019年10月のF O M C（米連邦公開市場委員会）でも実施しましたが、今後は当面現状の金融政策を維持すると思われます。今後の景気や米中通商協議の動向などにより、米国国債利回りはレンジ内で上下する展開を想定しています。

ユーロ圏経済は景気の減速懸念や低インフレが継続しており、緩和的な金融政策が長期化すると見えています。ドイツやフランスの国債利回りは上昇し難い環境が続くと想定されますが、英国のE U離脱への懸念後退により投資家のリスク選好姿勢が高まっていることから、一時的に上昇することも考えられます。イタリア国債利回りについては、2020年予算案を巡る思惑などにより、やや変動幅の大きくなる展開を想定しています。

米ドル/円相場は、米国の景気や米中通商協議の行方に対する思惑などにより、レンジ内で上下する展開を想定しています。ユーロ/米ドル相場は、英国のE U離脱協議や欧州と米国の景気動向などによりレンジ内で上下する展開を想定しています。

### ●当ファンド

当ファンドの運用については、引き続きマザーファンドを高位に組み入れます。

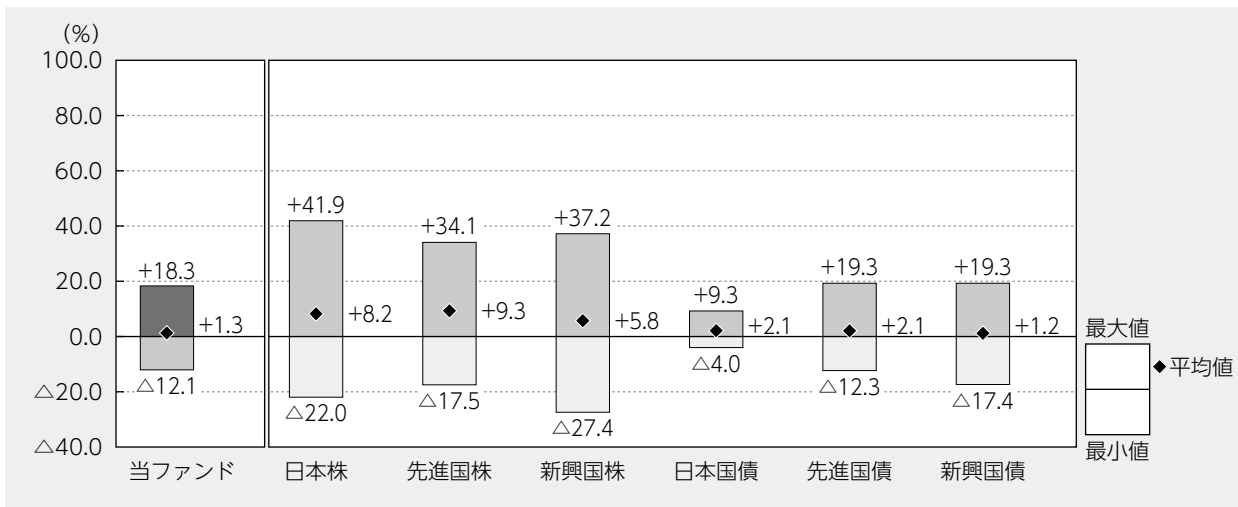
### ●海外国債マザーファンド

マザーファンドにおいては、引き続き外国公社債を高位に組み入れ、投資対象国の経済情勢や金利・為替環境を分析した上、デュレーション水準や通貨配分等を適切に調整し、安定した収益の確保と信託財産の成長を目指す方針です。

## 当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／海外／債券	
信託期間	原則、無期限です。	
運用方針	海外国債マザーファンド受益証券ならびに日本を除く世界主要先進国の公社債を主要投資対象として、長期的に安定した収益確保と投資信託財産の成長を目指します。	
主要投資対象	海外国債ファンド （3ヵ月決算型）	海外国債マザーファンド受益証券ならびに日本を除く、F T S E 世界国債インデックスに含まれる国に所在する政府、政府関係機関、国際機関、法人およびその他事業体が発行する当該インデックスに含まれる通貨建ての国債、政府機関債、国際機関債、短期金融商品を主要投資対象とします。
	海外国債マザーファンド	日本を除く、F T S E 世界国債インデックスに含まれる国に所在する政府、政府関係機関、国際機関、法人およびその他事業体が発行する当該インデックスに含まれる通貨建ての国債、政府機関債、国際機関債、短期金融商品を主要投資対象とします。
運用方法	海外国債マザーファンド受益証券ならびに日本を除くG7構成国（アメリカ、イタリア、ドイツ、フランス、イギリス、カナダの6カ国）が発行する国債、政府機関債を中心に投資します。 公社債の実質組入比率については原則として高位を保ちますが、投資環境が大きく変動するような場合、このような運用ができないことがあります。 外貨建資産については、為替ヘッジを行いません。	
分配方針	分配対象額の範囲は、繰越分を含めた利子・配当収益と売買益（評価益を含みません。）等の全額とします。分配金額は、委託者が基準価額水準や市況動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には、分配を行わないことがあります。留保益の運用については、特に制限を設けず、運用の基本方針に基づいた運用を行います。	

## 代表的な資産クラスとの騰落率の比較



2014年11月～2019年10月

(注1) すべての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注2) 上記期間の各月末における直近1年間の騰落率の平均値・最大値・最小値を、ファンドおよび代表的な資産クラスについて表示し、ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したものです。なお、上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注3) 当ファンドの騰落率は、税引前の分配金を再投資したものと計算しています。

### \*各資産クラスの指数

日本株…東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

先進国株…MSCIコクサイ・インデックス (配当込み、円ベース)

新興国株…MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

日本国債…NOMURA-BPI国債

先進国国債…FTSE世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

新興国債…JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースィファイド (円ベース)

(注) 海外の指数は為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

※各指数については後掲の「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご参照ください。

## 当ファンドのデータ

### 当ファンドの組入資産の内容（2019年11月15日現在）

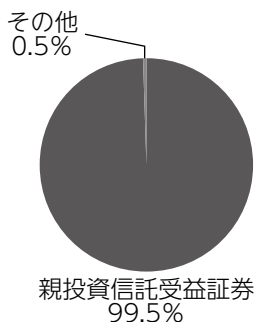
◆組入ファンド等 (組入ファンド数：1ファンド)

	第68期末
	2019年11月15日
海外国債マザーファンド	99.5%
その他	0.5

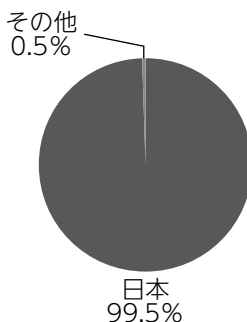
(注1) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注2) 現金等はその他として表示しています。なお、その他は未払金等の発生によりマイナスになることがあります。

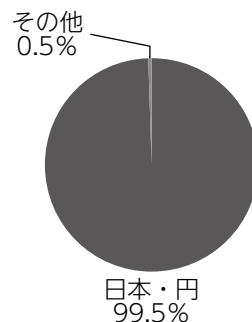
◆資産別配分



◆国別配分



◆通貨別配分



(注1) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注2) 現金等はその他として表示しています。なお、その他は未払金等の発生によりマイナスになることがあります。

(注3) 国別配分につきましては発行国（地域）で表示しております。

### 純資産等

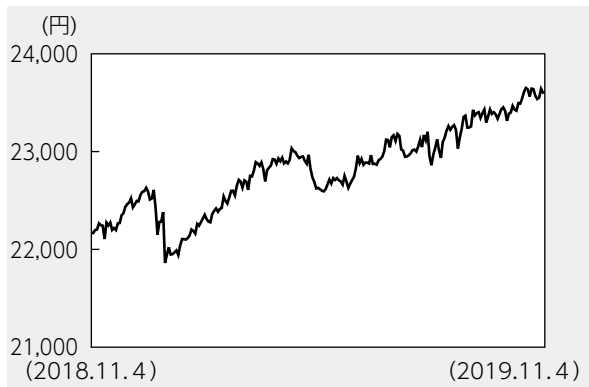
項目	第67期末	第68期末
	2019年8月15日	2019年11月15日
純資産総額	2,336,553,411円	2,311,231,173円
受益権総口数	2,596,068,134口	2,559,774,140口
1万口当たり基準価額	9,000円	9,029円

(注) 当作成期間（第67期～第68期）中における追加設定元本額は1,727,378円、同解約元本額は92,951,244円です。

## 組入ファンドの概要

[海外国債マザーファンド] (計算期間 2018年11月5日～2019年11月4日)

### ◆基準価額の推移



### ◆組入上位10銘柄

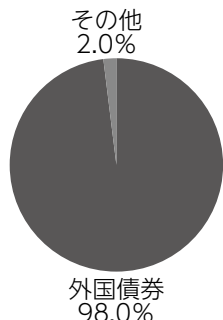
銘柄名	通貨	比率
US T N/B 2.875 08/15/28	アメリカ・ドル	4.5%
US T N/B 2.375 05/15/29	アメリカ・ドル	4.4
US T N/B 2.25 02/15/27	アメリカ・ドル	4.3
US T N/B 2.0 11/15/26	アメリカ・ドル	4.2
US T N/B 1.625 08/15/29	アメリカ・ドル	4.1
US T N/B 3.125 11/15/28	アメリカ・ドル	4.0
US T N/B 2.875 05/15/28	アメリカ・ドル	3.9
US T N/B 2.625 02/15/29	アメリカ・ドル	3.8
US T N/B 2.75 02/15/28	アメリカ・ドル	3.8
US T N/B 2.375 05/15/27	アメリカ・ドル	3.7
組入銘柄数	46銘柄	

### ◆1万口当たりの費用明細

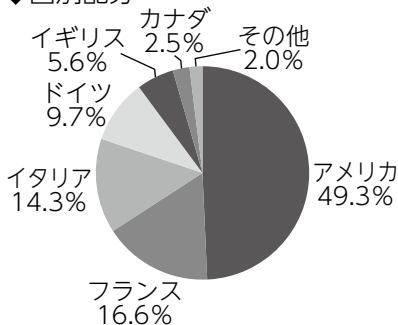
項目	当期	
	金額	比率
(a) その他費用 (保管費用) (その他)	6円 (6) (0)	0.025% (0.025) (0.000)
合計	6	0.025

期中の平均基準価額は、22,812円です。

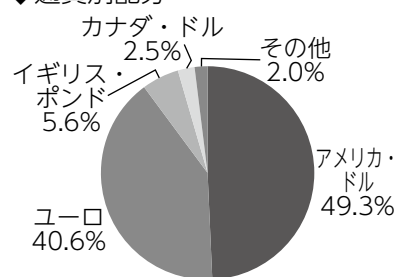
### ◆資産別配分



### ◆国別配分



### ◆通貨別配分



(注1) 基準価額の推移、1万口当たりの費用明細は組入ファンドの直近の計算期間のものです。

(注2) 「1万口当たりの費用明細」期中の費用(消費税等のかかるものは消費税等を含む)は、追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。金額欄は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。なお、項目の概要につきましては運用報告書(全体版)をご参照ください。

(注3) 組入上位銘柄、資産別配分・国別配分・通貨別配分のデータは組入ファンドの直近の決算日現在のものです。

(注4) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注5) 国別配分につきましては発行国(地域)で表示しております。

(注6) 現金等はその他として表示しています。なお、その他は未払金等の発生によりマイナスになることがあります。

(注7) 計算期間中の運用経過や組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書(全体版)に記載されています。

### <当ファンドのベンチマークについて>

#### ●FTSE世界国債インデックス（除く日本、7-10年、円ベース）

FTSE世界国債インデックス（除く日本、7-10年、円ベース）は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合投資利回りを、各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。FTSE Fixed Income LLCは、本ファンドのスポンサーではなく、本ファンドの推奨、販売あるいは販売促進を行っておりません。このインデックスのデータは、情報提供のみを目的としており、FTSE Fixed Income LLCは、当該データの正確性および完全性を保証せず、またデータの誤謬、脱漏または遅延につき何ら責任を負いません。このインデックスに対する著作権等の知的財産その他一切の権利はFTSE Fixed Income LLCに帰属します。

### <代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について>

- 「東証株価指数（TOPIX）」は、東京証券取引所第一部に上場されているすべての株式の時価総額を指数化したものです。同指数は、株式会社東京証券取引所（㈱東京証券取引所）の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利は、㈱東京証券取引所が有しています。
- 「MSCIコクサイ・インデックス」は、MSCI Inc. が開発した株価指数で、日本を除く世界の主要先進国の株価指数を、各国の株式時価総額をベースに合成したものです。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc. に帰属します。また、MSCI Inc. は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
- 「MSCIエマージング・マーケット・インデックス」は、MSCI Inc. が開発した株価指数で、新興国の株価指数を、各国の株式時価総額をベースに合成したものです。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc. に帰属します。また、MSCI Inc. は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
- 「NOMURA-BPI国債」は、野村證券株式会社が国内で発行された公募利付国債の市場全体の動向を表すために開発した投資収益指数です。同指数の知的財産権その他一切の権利は野村證券株式会社に帰属します。なお、野村證券株式会社は、同指数の正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、ファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。
- 「FTSE世界国債インデックス（除く日本）」は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。
- 「JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバーシファイド」は、J. P. モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーが公表している新興国の現地通貨建ての国債で構成されている時価総額加重平均指数です。同指数に関する著作権等の知的財産その他一切の権利はJ. P. モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーに帰属します。また、同社は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。